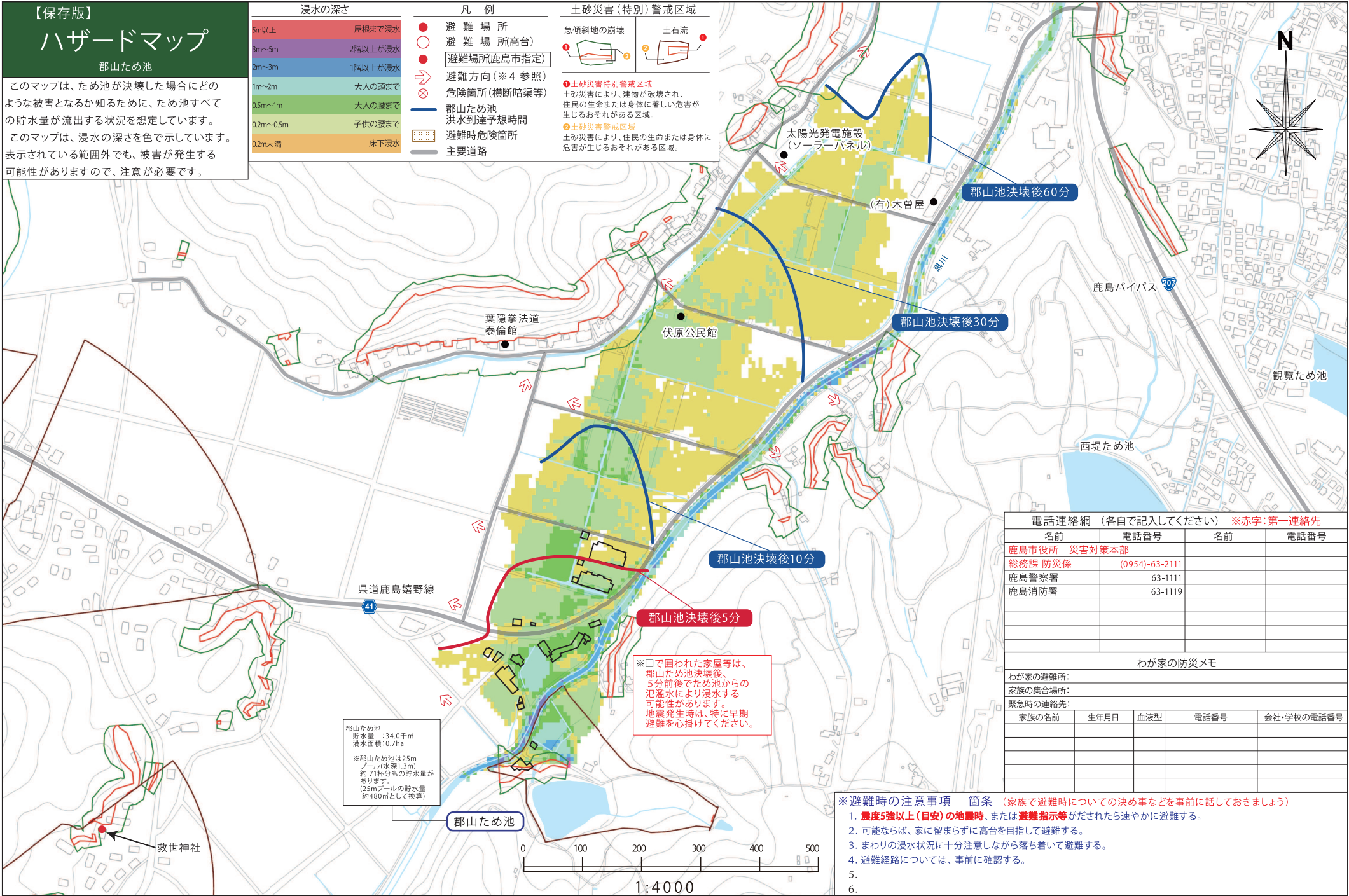




ため池ハザードマップ

郡山ため池

●ため池ハザードマップとは、ため池が決壊した場合の被害想定範囲を地図化したものです。ため池が決壊した場合に、被害を最小限に留めることを目的として作成しています。



郡山ため池全景



郡山ため池下流域

令和3年6月

鹿島市ため池ハザードマップに関するお問い合わせ



鹿島市役所(代) Tel 0954-63-2111
Fax 0954-63-2129
農林水産課農山漁村係 Tel 0954-63-3413
E-Mail norin@city.saga-kashima.lg.jp
災害対策本部(災害時のみ) Tel 0954-63-2111



※このハザードマップは、大規模地震により、満水状態のため池の堤体が、一気に基部まで破損し、貯留水が下流へ流出した場合を想定しています。

ため池
決壊想定
イメージ

1 大規模地震により堤防が破損

・・・亀裂や堤防前面の滑落など

2 大雨の増水により堤防が破損

・・・亀裂や堤防前面の滑落箇所からの漏水など

決壊地点直下の地域の建物や車は押し流される可能性があります。

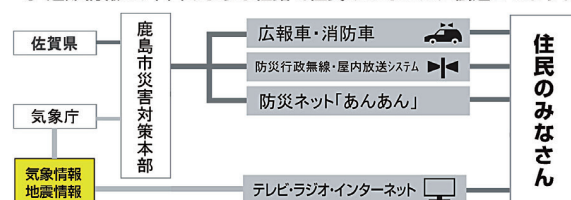
高台に避難してください！

市からの避難情報に注意しよう

● 行動を促す避難情報には、緊急度に応じて3種類あります。

警戒レベル	避難情報等	避難行動等
レベル5	緊急安全確保	命の危険 ただちに安全確保
レベル4	避難指示	危険な場所から全員避難 →避難指示が発令されたら必ず避難
レベル3	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 →高齢者等以外の人も、必要に応じ普段の行動を見合わせたり、避難の準備をしたり、自主的に避難

● 避難情報は、下図のような経路で住民のみなさんに伝達されます。



地域防災力の向上に向けて

地震が必ず発生します。もしかすると、明日発生するかもしれません。この予想される大規模な被害に対応するためには、自助・共助・公助の取り組みとともに、地域の防災力を向上させていくことが重要です。

「災害を知る」「まちを知る」「人を知る」

■ 災害をイメージして、日常から自分で対策を考えることが大切です。

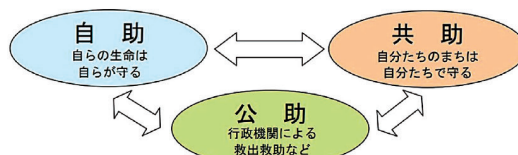
1. 災害を知る
「どれくらいの規模で、どのような災害の発生が予想されるか」
2. まちを知る
「災害時に安全な場所、危険な場所はどこにあるのか」
「何かあった場合にお世話になる場所や施設はどこにあるのか」
3. ひとを知る
「いざという時に頼りになる人はどこにいるのか」
「近所に手助けが必要な人はいるか」



「自助」「共助」「公助」

■ 災害の被害を軽減するためには、「自助・共助・公助」連携が不可欠です。

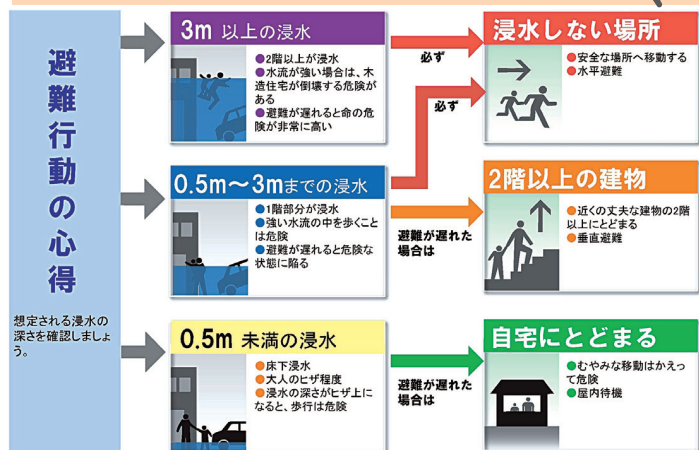
1. 自助
「自らの安全は、自らが守る」これが、防災の基本です。
2. 共助
近所の人たちと協力して、お互いに助け合うこと。
3. 公助
市役所・警察・消防といった行政機関が取り組むこと。



それぞれが、災害対応力を高め、連携することが重要

地域防災力を高めることが、災害に強い地域を作る事に
つながり、一人でも多くの命を救うことにつながります。

避難指示等がだされたら速やかに避難



～早期避難のススメ～

避難は、可能な限り浸水被害が発生する前に行ってください。ため池が決壊後の避難は危険ですので、注意してください

- 動きやすい服装で。
- 荷物は最小限。
- 2人以上での避難。



- 足元に注意。



- 避難は徒歩で。



- 指示に従いましょう。



地震のあと

被災状況(防災無線の故障、広報車の通行不可、停電等)により、通常の手段を通じた情報の入手が困難になります。そのことを前提と考え、憶測やデマに惑わされず、冷静に事態に対応しましょう。

災害発生時の避難情報
入手における注意点

大雨のとき

大雨時は家屋内にいる場合が多く、防災無線・広報車の呼びかけが雨の音で聞こえにくい場合があります。テレビやラジオ、インターネットなどから、自主的な情報収集を心がけましょう。